

令和7年度第2回伊勢市子ども・子育て会議 議事要録

日 時	令和8年3月19日(木) 14:00~16:10
場 所	伊勢市役所本庁舎東館5階 5-3、5-4会議室
出席委員	中條委員、秋山委員、花田委員、右京委員、山本委員、石井委員、奥山委員、湯田委員、姫子松委員、長岡委員、山岸委員、大西委員、大内委員、森井委員、笠木委員、團野委員
事務局	〔健康福祉部〕 理事、次長、参事兼福祉総合支援センター長、子育て応援課長、同子育て応援係長、同こども育成係長、同主事2名、保育課長、同保育係長、同施設運営係長、高齢・障がい福祉課長、福祉総合支援センターこども家庭相談係主査、健康課母子保健係長、こども発達支援室長、福祉監査室長、同法人・施設係長 〔教育委員会事務局〕 教育総務課長、学校教育課副参事、社会教育課長、教育研究所長
傍聴者	0名
資 料	資料1-1 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)に係る確認申請について 資料1-2 利用定員を変更する特定教育・保育施設 資料2-1 R7幼稚園等利用状況、R7保育所等利用状況 資料2-2 就学前児童の保育所・幼稚園利用状況(認定こども園含む) 資料2-3 令和8年度公立・私立幼稚園等申込児童数、 令和8年度公立・私立保育所等入所見込児童数 資料2-4 教育・保育施設の確保方策について 資料3 伊勢市こども計画別冊 伊勢市こども計画に基づき実施する 主な施設整備事業 資料4 令和7年度「幼児期から学童期を通しての連携した取組状況」について 資料5-1 あさま児童センターにおけるこどもの意見聴取の結果について 資料5-2 あさま児童センターワークショップ報告書

議 題

- (1) 保育所等における利用定員の設定・変更について
- (2) 令和7年度入所状況及び令和8年度申込状況・確保策について
- (3) 伊勢市こども計画別冊「伊勢市こども計画に基づき実施する主な施設整備事業」における令和7年度及び令和8年度事業について
- (4) 令和7年度「幼児期から学童期を通しての連携した取組状況」について
- (5) あさま児童センターにおけるこどもの意見聴取の結果について

・事務局より会議公開の説明、新委員の紹介、資料確認、会議成立の報告

【事務局より】

議題(1)について説明(資料1-1、1-2)

(「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す)

●こども誰でも通園制度は、今どれくらい利用されているか。伊勢市のLINEで案内を見たら、支払い方法も分かりやすく工夫されていると感じた。若い世代に知ってもらうために、LINEなどで周知しているのかも知りたい。

→制度は7月から始めて、2月までに延べ22人・56件の利用があった。先行実施だったので周知が遅れた面はあるが、年度末に向けて利用は増えている。3月からは国のWebシステムで申し込みが始まり、すでに十数件の申し込みがある。4月から公立施設でも始まるので、さらに増える見込み。

●利用定員の変更は実態に合わせたもので問題ないとする。議題1を承認。

【事務局より】

議題(2)について説明(資料2-1～2-4)

●待機児童はいないとのことだが、入所保留の内訳を見ると育休延長が107件と多い。希望園に入れないから育休延長しているのでは？希望園への入所状況は把握できているか。

→利用申し込み時に第1～6希望まで書いていただいております、4月復帰が必要な方が入れない状

況はない。ただ、一部地域では希望園に入れず、沿岸部の園をご案内することがある。その際、育休延長を選ばれる方が一定数いる。育休制度が取りやすくなったことも影響していると考え
る。

- 議題2は承認します。

【事務局より】

議題(3)について説明(資料3)

- この会議では例年3月に次年度の計画を報告してもらうということでのよいのか。
→5年計画なのでその間の分を事前に記載しておくのが理想だが、年々修繕箇所が増えるため、
次年度の予算が見えた段階で直近の部分を追記している。今後もその形で対応していきたい。
→追加分は交付税措置の対象と確認済みのため、財源確保の観点で追記した。
- 必要に応じて追加していくという方向でうまく進めていただければと思う。

【事務局より】

議題(4)について説明(資料4)

- 対象39名のうち25名が参加したということは、必要と判断された14名が参加していない。
なぜ参加しなかったのか、フォローはどうしているのか知りたい。
→参加率は64%で例年より高いが、来なかった理由は把握していない。参加されなかった子どもは保育所などに在園しているので、園を通じて継続的にサポートしている。保護者からは『障がいと決められたのか』といった声もあり、そのあたりが不参加の理由の一つだと感じている。
- 園でのサポート内容が気になる。早期支援が重要で、家庭の事情で相談会に来られない家庭こそ丁寧なフォローが必要。
→CLM(チェック・リスト・イン三重。子どもの発達や特性に合った具体的な支援を実施するために、県立子ども心身発達医療センターが開発したツールのこと)を活用した早期支援に取り組んでいる。
- 5歳児健診の行うアンケートがあるが、他市町での回収が70%程度なのに対し、伊勢市は保

育所等を通じて行うことでほぼ100%回収できている。ただ、それでも“気になる子”に健診の案内をしても、全員が来るわけではないと思う。それが現実だと感じている。

- 発達障がいだけでなく、愛着障がいも問題と感じている。親自身が発達障がいでも子どもの発達障がいを受け止められない家庭もある。乳幼児期に親子関係ができていくので、まずは子どもに関わって愛着形成を支えている。乳幼児の時に母親のケアを手厚く行って欲しい。

→健康課では、生後1～2か月の乳児がいる家庭に訪問し、育児相談でお母さんの悩みを聞いたり母子保健サービスの紹介している。妊娠届の段階で心配がある妊婦には妊婦訪問を行い状況の確認や助産師と一緒に訪問し、沐浴や授乳の仕方などを伝えながら関係を作り、切れ目のない支援を行っています。

- 支援につなげている点は良いが、受けなかった家庭の理由やアフターフォローが気になる。母親だけでなく父親も含めた支援や、障がい受容が難しい家庭への連携が課題だと感じている。

→不参加理由の確認はしていない。来年度から開始する5歳児健診では、保護者さんと直接会う機会があるので、専門職による子どもの特性に応じた支援がより充実できる。5歳児健診は、診断する場ではなく早期支援の場であることを丁寧に伝えていきたい。

- 発達障がいと愛着障がいは違い、支援も変わる。赤ちゃん期からの連携をもっと工夫し、0歳から継続支援できる仕組みが必要だと感じている。

→妊娠期から関係機関が連携して支援。愛着の問題がある家庭には交流の場や講座を紹介。気になる子は健診後も訪問や園との連携を継続。保護者の受け止めが難しいため、寄り添いながら関わることを重視している。

- フォローが薄い家庭が積み重なることを懸念。相談会に来ない家庭こそ丁寧な関わりが必要。

訪問で様子を確認し、未就園家庭にも支援が届くよう情報共有を進めるべきだと考えている。
→未就園の子は年1回調査をして来所や訪問等で全家庭状況確認をしている。入園を促し、難しい場合は定期訪問で見守り、小学校につないで支援している。

- お母さんが問題を抱えることが多く、まず思いを丁寧に聞き信頼関係を作ることが必要。話を聞く場がないと支援は届かないと感じている。

- (中央保健センターの)保健師やこども発達支援室、福祉総合支援センターなど、市の途切れのない支援体制ができていると実感している。こども発達支援室の5歳児健診と教育委員会の就学相談が別々で負担が大きい。一本化を検討してほしい。

→ご意見を踏まえて改善を検討する。

- 保育士は子どもや保護者との信頼関係を築くために日々時間をかけて関わっている。その中で保護者への“子どもの状態の受け止め”というデリケートな話題の伝え方は非常に難しい。支援室から具体的なアドバイスがあると助かる。

→園の先生方には、その点も踏まえて助言している。また、(5歳児健診の機会などを通じて)こども発達支援室からアプローチしていきたい。

【事務局より】

議題(5)について説明(資料5-1、5-2)

- (ワークショップに参加した若者委員より)子どもたちの意見を直接聞くことが大事だと感じた。漫画が古かったり読めない状態という声が印象的だった。今後も関わっていきたい。
- (同上)子どもたちの意見は本当に心に刺さった。6年生が低学年の子のことまで考えて意見を出していて感動した。
- アンケートは毎年しているが、今回のような直接意見を聞く方法は参考になる。
- 子どもの意見に対して“駄目”と大人の都合を押し付けるだけでなく、駄目な理由を説明し、子どもが納得できる話し合いが必要。

【事務局より】

その他について説明

- 自分も子どもが3人いて、病院に行くたび受給者証を持っていくのが大変なのでマイナンバーや市のLINEで証明できるようになると助かる。若い人も使いやすくなるので、こうした取り組

みを進めてほしい。

→医療費受給者証はマイナンバーとの連携が進んでいて、医療機関にも協力してもらいながら、少しずつマイナンバーで確認できるように進めている。

●子ども医療費の番号はマイナンバーで分かるようになっているが、病院側の受付ソフトが更新されていないと使えない。伊勢市は去年から早めに対応していて、マイナンバーで番号確認ができるようになっている。

●前回会議で提案したAIチャットボットが市LINEに導入されるということで、これまでは市役所に何を頼むにもどの部署か分からず、自分のAIで調べて問い合わせていたが、今後は市のサービスとして対応してもらえるのがありがたい。